

---

**第 109 回松本歯科大学大学院セミナー**

**日 時:** 2006 年 2 月 27 日(月) 17 時 30 分~19 時 00 分

**場 所:** 実習館 2 階総合歯科医学研究所セミナールーム

**演 者:** 山田一尋 氏

(新潟大学大学院医歯学総合研究科歯科矯正学分野・講師)

**タイトル:** 矯正臨床における変形性関節症 - 顎関節病態と顎運動に注目して -

矯正治療による顔面形態,咬合の改善に伴い,顎機能も改善することが示されています。しかしながら,近年,矯正臨床において顎関節の変形性関節症に関連した顔面変形(下顎後退,開咬,顎偏位)の発症が注目されています。

変形性関節症の臨床像は多様で,特に矯正治療の対象となる若年者では顎関節症状が軽微で,臨床的対応が遅れる場合がみられます。成長中あるいは治療中に突発的に変形性関節症が発症した症例では,下顎骨の後方回転による下顎後退,開咬あるいは顎偏位が発症し,矯正治療がきわめて困難に陥る場合が報告されています。したがって,初診時における変形性関節症を含めた顎関節症の診査ならびに矯正治療中,治療後の変形性関節症の発症因子の管理が重要と考えられます。

そこで,私たちは画像診断と6自由度顎運動測定装置を用いた顎運動解析から,変形性関節症患者の顎関節病態と顎機能運動の特徴を検討してきました。本セミナーでは,私たちの研究から得られた変形性関節症の診査,管理において重要となる要因について,お示したいと思えます。

硬組織疾患制御再建学講座 小澤英浩